

第1回科学推進専門部会会議議事録

日時：4月26日（水）13時30分～17時30分

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）：

地球内部分科会：小原泰彦、田村芳彦、道林克禎、富士原敏也、廣野哲朗

地球環境分科会：長谷川卓、沢田健、伊藤慎、亀尾浩司、（途中参加：多田隆治）

地下圏微生物分科会：丸山明彦、稲垣史生、奈良岡浩、福井学、（欠席：砂村倫成）

SSEP 委員：石橋純一郎、高井研、林田明、山崎俊嗣、竹内美緒、安間了、伊藤孝

リエゾン：巽好幸、山本啓之、真砂英樹

MEXT：宮崎貴雄

J-DESC：阿波根直一

オブザーバー：鷲尾幸久、笹山岳大、

事務局：山田泰、長橋徹

部会長あいさつ（丸山部会長）

- ・ 報告事項をコンパクトにし、審議事項を充実させたい。最後に次回 SSEP 会議のために事前検討の時間を設けたい旨、説明がなされた。

報告事項

1) 新専門部会発足について

- ・ 事務局より、部会会則の中から任務や組織についての紹介がなされた。
- ・ 出席者全員で自己紹介を行った。

2) SSEP 報告（小原分科会長兼 SSEP 委員）

i) WG1: プロポーザルの書き方、提案者との連絡、対応について。

- ・ 提案者に対して、SSEP からカバーレターをつけて返送する。また、レビューについても、フォーマットを決め、それに従って行うこととなった。すなわち、形として論文のレビューレターのように、細目の項目分けを行い、項目に対応してレビューを行うこととなった。

ii) WG2: フラスカティレポートで考え出されたミッションプロポーザルについての対応、SSEP の考え方について。

- ・ あくまでもトップダウン方式ではなく、科学コミュニティから発せられるものであるという理解である。既にあるプロポーザルが取り込まれ集められてミッションになる例も出現すると思われる。
- ・ SPC が時間的なフレームワークを設定し、ミッションチームの人選を行う。
- ・ DPG、PPG は今後もミッションとは独立に継続するものの、ミッションの概念は DPG

のタスクを含むものである。

iii) WG3: DPG, PPG について

- ・ 高緯度の極大気候の PPG、高分解能気候変動のものの PPG, ホットスポットのプロポーザルをハンドリングするための DPG を作る。
- ・ ジオハザードに関するワークショップを承認する。
- ・ WG microbio のプロポーザルを積極的に出すためのワークショップ: IODP-MI と disconnect している (Dr. T による Microbio mini meeting の報告)。

3) SPPOC 報告 (巽 SPPOC 副議長)

- ・ SPPOC とは SAS の最高機関で、米国 7 人、日本 7 人、EU 4 人の合計 18 人によって構成されている。日本側は人数を減らしたいという意向があり、最近 SAS Executive committee に改組した[資料 1-2]。サセック (SASEC) と発音。
- ・ ISP と比べるとモホールなどが欠如しているということが、フラスカティーレポートの背景にあった。
- ・ ミッションの議論はいろいろなレベルで行われた。スモールグループでは、ISP を遂行するためのものであり、トップダウンのものではない。
- ・ コンセプトとしては承認され、3 月に具体的なことを決めていくことが了承された。
- ・ 一つの案として、SSEP に今あるプロポーザルを吟味し、ミッションとして集められるものを選んでいくということも考えられる。
- ・ 巽コメントとしては「ミッションは SAS がつくる。IODP-MI ではない」
- ・ サセックは 3 人 (米国)、3 人 (日本)、2 人 (EU) 体制になる。任期は 2 年。
- ・ SASEC は SAS の最高意思決定委員会であるが、この点を十分に認識して活動しないと IODP-MI Board of Goveners の御用委員会になる可能性がある (IODP の精神に反すると思われる)。当面はワシントンで対応したいという意向が強い、など説明がなされた。

4) SPC 報告 (山本 SPC 委員)

- ・ FY2008-2009 までスケジューリングされた。多田委員の提案もランキングされている。今年の秋はランキングの作業はしない旨、説明があった
- ・ ミッションプロポーザルの件は、次回の SSEP で流れるであろう。
- ・ marine-protected area について。公海にも広げようという動きがある。直接 IODP に関係があるのかないのか、今後どうなるのか不透明である旨、説明があった。
- ・ Hot spot の DPG はどうなったのか? 特に異論は出なかったが。

5) CDEX 報告 (真砂氏)

- ・ 現在「ちきゅう」は定期ドック検査中だが、5 月から海上試験を行い、夏~冬に下北東方沖にてライザー試験掘削の予定。その後、2007 年 9 月から熊野灘南海トラフ掘削となる旨、説明があった。
- ・ 下北試験掘削では、ラボやコア、カッティング等の処理に関する評価のため、外部

研究者を若干名招聘する予定である。

- ・ この他、陸上研究用試料やデータのリクエストの受け付けも行う。今回はルールを確定させないでやったため混乱があった。今後よく検討する旨、説明があった。
- ・ NanTro SEIZE のフェーズ 1 の計画が進行している。「ちきゅう」で 3 掘削、SODV (アメリカ) で 2 掘削の予定。2 つ目のライザーミッションで、3.5 km 掘る際に上部 1000 m だけコア取りを計画している。既に、掘削予定地で 3D データ取りが始まった。この後掘削地点を確定していく。5/29-31 に IO が集まって Planning meeting を予定している。2006 年 6 月から Stage 1 のみを対象に乗船研究者の公募を予定している旨、説明があった。
- ・ 相模灘掘削についても可能性はあるが、具体的にはまだ議論されていない。
- ・ 試験掘削でリクエストできる人の範囲は？日本人だけか？といった点については、まだ詰め切れていない旨、説明があった。

6) J-DESC 執行部報告 (阿波根 IODP 部会長補佐)

- ・ 乗船研究員の推薦状況が紹介された[資料 1-3]。
- ・ これまで、当初想定以上の航海数増とその対応への予算繰りが原因でポストクルーズ会議出席のための旅費を一部支給できないことがあった旨、説明がなされた。

7) IODP-MI 報告 (阿波根 IODP 部会長補佐)

- ・ IODP-MI 主催で 2006 年度に 4 件のワークショップを行う[資料 1-10]。招聘者は IODP-MI が旅費を負担する事になっており日本からも積極的に参加してほしい旨、説明がなされた。

審議事項

1) 科学推進専門部会の活動方針・マニフェストについて

- ・ 事務局より、科学推進専門部会の会則[資料 1-1]についての説明がなされた。
- ・ 執行部からの本専門部会への要請は、SSEP の支援、次期委員育成、主席候補者のリスト作成、乗船研究の促進、乗船希望者のランキング (最終的には、C-Chief と IO にゆだねられている)、終了した航海のための評価委員 (Operation Review Task Force[資料 1-7]) ; 航海終了後半年程度で開かれる。主席経験者など、日本から各委員会に 1 名研究者を送る権利がある) の推薦である旨、説明があった。

2) SSEP 委員の交代について (事務局)

- ・ 事務局より、大量交代への対応について検討してもらった結果、退任を迎える委員の退任時期を多少延期することでこの問題を回避することが可能となった旨、説明がなされた[資料 1-4]。
- ・ 次期 SSEP 委員の選出について[資料 1-5]、3 人の委員の選出が必要となっている。公募内容 (分野) について検討した結果、専門分野のバランスに加え、これまでのブローカーの分野動向等も勘案する必要があることが議論された。具体的には、炭酸

塩化学関連のプロポーザルに今の委員ではよく対応できていないこと、新規提出の日本初プロポに関わる数名のSSEP委員がコンフリクトとしてそれらのプロポーザルに関与できない事情などに考慮して分野を決めることを了承した。地球物理学関連(古地磁気学など)1名、微古生物学1名、炭酸塩化学関連1名で公募を行う旨、確認した。

- 3) 今後の日本人乗船研究者のノミネーションについて(阿波根 IODP 部会長補佐)
 - ・ 最近の航海と今後の航海予定の説明がなされた[資料 1-6]。
 - ・ 乗船者ランキングのつけ方については、部会のランキング結果をJ-DESCがIOへ通知し、主席研究員とIOが航海の目的・必要とする専門分野を考慮し乗船者を決定する。実際には、航海ごとに個別に対応していく旨、説明がなされた。
 - ・ New Jersey Shallow Shelf (#313)航海は2007年夏頃に延期された。今後、参加メンバーを2次募集する可能性があるが、分野バランスに配慮したい旨、説明があった。
 - ・ できるだけ応募者の専門分野を幅広くとり、大学院生の場合はメンタル面にも配慮して推薦してほしいという要請があった。
- 4) Operation Review Task Force の評価委員の推薦について(阿波根 IODP 部会長補佐)
 - ・ #310 のタヒチでの会議に評価委員を推薦する必要がある旨、説明があった[資料 1-7]。これについて、5月中にリストを作成し、事務局に推薦することとした。
- 5) ミッション型/CDP プロポーザル作成支援について(事務局)
 - ・ 公募要領[資料 1-8]の概要について J-DESC 事務局から説明があり、サイトサーベイ経費には単年度でできる範囲で可能であること、プレからフルに格上げするための研究経費にも使えること、今年は7月実施開始としたいこと、などが報告された。前述の予定を遂行するために、5月中旬に募集要項を配布、6月中旬に審査とするよう依頼があった。
 - ・ 本経費は「ちきゅう」を用いる日本のプロポーザルを支援することが主目的である旨、JAMSTEC の異委員より説明があった。
 - ・ 今年はこれから募集だが、来年度は4月から使えるような体制を整え、応募は前年度中に行い、選考も前年度内に行うことが可能である旨、事務局から説明があった。
- 6) その他(丸山部会長)
 - ・ 生物系研究者の航海参加や掘削提案を促進させるためのワーキンググループ設置案について、会則に基づき検討する旨、発言があった。
 - ・ 政治的な問題が予想される海域に今後どう対応するか。最近、二三の問題が表面化している(新聞報道等)。本部会は科学面が任務だが、事前に問題点を把握し対応策を検討しておく必要はないかと委員の中から提案があった旨、説明がなされた。これについて、文科省担当者から、問い合わせ等があった場合は文科省に回してほしい旨の発言があった。本部会では、直接的には関与しない旨、申し合わせがなされた。

SSEP 事前打ち合わせ（多田 SSEP 共同議長）

- ・ 政治的な問題が予想される海域を対象としたプロポーザルに対し、日本人委員の SSEP における対応をどうするかが議論された。これに対し、SSEP 委員としては「科学」に関する議論だけを行うべきであり、対応を考える必要はないということで合意した。
- ・ 政治的な問題が予想される海域を対象としたプロポーザルに対する SSEP の対応に関して、日本側から議題として追加する必要があるかどうか議論された。これに対し、上記と同じ理由により必要はない。多田共同議長が非公式に他の共同議長にコメントを求めたところ、そのような議論は必要ないという意見だったことが紹介された。
- ・ 多田共同議長より、今回自らの専門から離れた内容の分科会で議長をすることになった旨の説明がなされ、各委員に協力依頼がなされた。
- ・ 日本人のプロポーザルについて、会議に同席したプロポーザル関係者からその内容について説明があった。

以上